

翻訳通信

翻訳と読書、文化、言葉の問題を幅広く考える通信

目次

■ お知らせ

山岡洋一

一 「翻訳通信」100号に向けて

「翻訳通信」第Ⅱ期は今年9月号で100号を迎える。これを記念して、東京と関西でセミナーを開催するほか、100号記念号を発行し、101号以降は翻訳関連の同人誌になることを目指して読者の投稿を歓迎する。

■ お知らせ

山岡洋一

一 「翻訳通信」投稿規定

「翻訳通信」では今後、読者の投稿を歓迎する。その際の注意事項をまとめた。

翻訳通信 〒216 川崎市宮前区土橋4-7-2-502 山岡洋一 電子メール GFC01200@nifty.ne.jp

(@は半角文字に変えてください)

定期購読の申し込みと解除 <http://homepage3.nifty.com/hon-yaku/tsushin/index.html>

知り合いの方に『翻訳通信』を紹介いただければ幸いです。

『翻訳通信』を見本として自由に転送下さい。

バックナンバー <http://homepage3.nifty.com/hon-yaku/tsushin/index.html>

「翻訳通信」100号に向けて

「翻訳通信」第Ⅱ期は今年9月号で100号を迎えます。さまざまな方から助言をいただき、100号記念の取り組みをいくつか計画しています。

第1に、東京と関西で100号記念セミナーを開催します。第2に、9月1日発行予定の100号は記念号とし、何人かの翻訳者や編集者、翻訳研究者に寄稿をいただく予定です。第3に、「翻訳通信」への投稿を積極的に呼びかけ、今年10月発行の101号から可能なかぎり投稿を掲載していくことにします。

セミナー

100号記念セミナーは東京では8月28日（土曜日）に出版クラブ会館（神楽坂）で開催の予定です。詳細は7月半ばごろに「翻訳通信」特別号で発表します。関西では関西IT研と合同主催で、9月18日（土曜日）に西宮市大学交流センター（西宮北口）で開催の予定です。詳細は8月にやはり「翻訳通信」特別号で発表します。申し込みの方法などはどちらも、詳細の発表の際にお知らせします。

現在のところセミナーの開催を予定しているのは以上の2か所ですが、他の都市でも協力して下さる方がおられれば開催が可能です。希望される場合は山岡まで連絡ください。

100号記念号

100号記念号には、これまでの執筆者はもちろん、翻訳者や編集者、翻訳論研究者、翻訳教育者など、多彩な方に執筆を依頼しています。9月1日に発行の予定です。期待ください。

翻訳の同人誌を目指す

101号以降は、これまで個人通信という性格が強かった「翻訳通信」をいうならば翻訳、翻訳批評、翻訳論の同人誌にする方向を目指そうと考えています。

小説や漫画などの分野では同人誌があり、一般の方の発表の場になると同時に、プロへの登竜門にもなっています。ですが翻訳関係では、そういう媒体は見かけないように思います。しかし今後の翻訳の

方向を考えると、おそらくはプロを目指しているわけではない方の発表の場が必要だろうし、出版翻訳の世界にも、これまでとは違った経路から新人が登場してくることが不可欠だと思われます。そこで、「翻訳通信」がそういう場になれるよう、時間をかけて努力していきたいと思います。

投稿をお願いしたいのは主に以下の分野です。

1. 翻訳

翻訳とは、外国語で書かれた優れた文書を読者が母語で学べるようにするための手段ですが、同時に、翻訳者自身にとって最良の学習手段でもあります。

読者にとっての学習手段であるという観点からは、明治以降のいわゆる翻訳調からの脱却をさらに進めて、翻訳のスタイルと質をさらに向上させていく必要があります。そのためには、これまでの翻訳を一挙に時代後れにしてしまうような新人の登場が望まれます。出版業界はいま、未曾有の不況に苦しんでいます。だからこそ、翻訳の常識を一新するような新人の登場を待ち望んでいるともいえます。「翻訳通信」は幸い、多数の編集者に読んでいただいていますので、新人の登竜門になる可能性はあるように思います。

読者にとっての学習手段であるという観点からは、たとえば「翻訳通信」で発表することを目標に1冊の本を訳すという形で使っていただければと願っています。何人かで学習会を組織して訳す方法もあります。インターネットをうまく使えば、どこに住んでいる方とでも学習会を組織することは可能です。参加者の募集のために「翻訳通信」の紙面を使っていただくことも可能です。

2. 翻訳批評

ほとんどどんな分野でも評論家や批評家が活躍しているいまの時代に、翻訳の評論や批評はあまりみかけません。たまにみかけるのは大部分、誤訳の指摘です。文芸や経済、スポーツ、映画など、どの分野をみても、批評や評論が欠陥や間違いの指摘ばかりだという例はありません。批評というからには、

評論というからには、良いものは良く悪いものは悪いと指摘することが重要ですが、そのなかでもとくに、簡単には気づきにくい素晴らしさを明らかにすることが重要だと考えます。翻訳にはそういう評論がほとんどなく、いってみれば、草野球の下手さかげんを指摘して悦に入っているような批評ばかりが目につくのは、じつに不幸なことだと思います。

そこで、「翻訳通信」ではこれまでも名訳を積極的に紹介するようにしてきましたが、今後は翻訳批評という分野で読者の投稿を積極的に呼びかけます。知られざる名訳の紹介、斬新なスタイルが使われた翻訳書の紹介、既訳と新訳の比較など、さまざまなテーマでの投稿を歓迎します。

3. 翻訳論と翻訳教育論

翻訳論は、日本では柳父章が切り開いてきた分野であり、欧米でも最近はずいぶん研究が進んでいます。ですが、いまだに新しい分野だということもあって、開拓の余地は大きいと考えます。とくに、一般読者向けに翻訳とは何かを伝える評論がもっと書かれてもいいと思います。「翻訳通信」ではそのような観点からの投稿を歓迎します。

翻訳の歴史もほとんど研究されていない分野だといえます。日本には古代中国語を漢文訓読というスタイルで翻訳してきた 1000 年を超える歴史があり、さらに、欧米の文献の翻訳でも、『解体新書』以来、250 年近い歴史があります。しかし、日本の翻訳通史を扱った文献はおそらくないと思われます。若手の研究者のなかから、あるいは悠々自適の生活をおくっている世代のなかから、日本の翻訳の歴史を研究してみようという方があらわれるよう期待しています。

これまで何度か「翻訳通信」で指摘してきたように、文法訳読法は外国語教育に止まらず、一般教養教育の王道として長年使われてきました。現在は訳読法がいれば流行しなくなった感がありますが、外国語（とくに英語）で書かれた優れた知識を吸収する必要がますます高まっているいま、訳読法の重要性を見直そうという機運が高まっています。そうした観点から、翻訳教育と外国語教育についての投稿を歓迎します。

4. 翻訳の技術とインフラ

パソコンとインターネットの普及によって、翻訳に利用できる技術は近年、大きく変化しています。

どのような技術がどのように使えるか、具体的な紹介をしていただければと願っています。

翻訳を支えるインフラストラクチャーにはさまざまなものがありますが、とくに重要なものの 1 つが辞書です。いま、翻訳についての考え方が大きく変わったなかで、英和辞典などの辞書の見直しが課題になっています。新しい世代の辞書についての提案などを歓迎します。

文法も翻訳にあたって重要なインフラの 1 つです。英文法教育が危うくなっているいま、英文法、日本語文法など、文法についての議論が盛んになるよう願っています。

もうひとつ、翻訳で重要な点に日本語があります。翻訳者は明晰で美しい日本語を書く能力が不可欠であり、読者には日本語で書かれた文章の質をしっかりと判断する力が求められます。日本語をテーマにした論考を投稿いただけるよう期待します。

100 号記念のその他の取り組み

当初、100 号までに掲載された記事をまとめた書籍の出版を考えましたが、これについては時間をかけて翻訳論と翻訳批評（具体的には名著の名訳の紹介）を書き下ろすのが最善だという結論に達しました。今後、ある程度まとまった時間がとれる機会があれば、翻訳論と翻訳批評の本を書こうと思います。

最後になりましたが、長年、「翻訳通信」を支えて下さった読者の皆さんにお礼を申し上げます。100 号を機会に、「翻訳通信」の一層の充実を図っていきますので、今後も支援をお願いします。

「翻訳通信」投稿規定

著作権と報酬

投稿された記事の著作権は執筆者に帰属します。投稿された段階で、「翻訳通信」とインターネットの翻訳通信サイトへの掲載を許可されたものとみなします。

「翻訳通信」は無料の刊行物ですので、原稿料などの報酬は支払いません。掲載料などの支払いを求めるところもありません。

投稿の締め切り

当面は毎月5日を翌月号の締め切りとします。

掲載の可否の判断

投稿された記事は発行人である山岡が掲載の可否を判断します。分野によっては、編集者や翻訳者、翻訳論研究者などに査読を依頼することがあります。可否を判断した結果は投稿者にお知らせしますが、理由はお知らせできない場合もありますのであらかじめ了承いただければ幸いです。

記事の書き直しや部分的な修正をお願いする場合があります。訂正の後にも掲載をお断りする場合があります。

可否の判断にあたっては、「翻訳通信」の一般読者にとって読む価値があるかどうかを基準にします。出版に値する質であればもちろん掲載できると判断しますが、出版の品質に達していなくても、読者に何かを伝えるように書かれていれば、掲載可能だと判断します。

投稿のフォームと添付書類

投稿フォームは[横書き用](#)と[縦書き用](#)を用意します。翻訳の場合は原則として縦書き用のフォームを使ってください。翻訳以外の場合には、どちらかを選択してください。

翻訳の場合、原文をテキスト・ファイルまたはPDFファイルで添付するか、コピーを郵送ください。原文が英語以外の言語の場合、英訳のテキスト・ファイルかPDFファイルをあわせて送付ください。現在、翻訳する価値がある文書であれば、英訳があるのが普通だと思いますので、そういう文書を選択

ください。また、既訳がある場合、代表的な既訳と参考にした既訳の該当部分をPDFファイルで添付するか、コピーを郵送ください。

翻訳批評の場合、とくに注目する部分の原文と訳文をやはりPDFファイルで添付するか、コピーを郵送ください。

翻訳の原著

翻訳の場合には原著の著作権という問題があります。そのため、「翻訳通信」に投稿できるのは原著の翻訳権を取得する必要がないものに限定します。著作権法はきわめて複雑で、翻訳権を取得する必要がないかどうかを確認するのは容易ではありません。そこで、安全を期して、原著者の死後62年を経過している著作に限定することにします（原著者の死後50年を経過すれば原則として翻訳権取得が不要になりますが、第2次大戦の戦勝国で出版された著作の場合、戦時加算として、約11年半がこれに加わりますので、死後62年とします）。

分量

とくに制限は設けませんが、横書きまたは縦書きのフォームで1ページを単位にし、空白行は30行以内に収めてください。

投稿が5ページを超える場合、「翻訳通信」には一部を掲載し、残りをインターネットの翻訳通信サイトに掲載する場合があります。

翻訳を投稿する際には、少なくとも原著のうち、30ページ以上を訳してお送りください。とくに理由がないかぎり、「翻訳通信」には一部を掲載し、全体をインターネットの翻訳通信サイトに掲載します。

合評会

投稿が「翻訳通信」に掲載された方はその後、不定期に開催される合評会に招待します。

その他

他人を誹謗中傷する投稿は掲載しません。また、仲間褒めと判断されかねない投稿も掲載しません。